

委員長（山本博司君） 行政制度、地方行財政選挙、消防、情報通信及び郵政事業等に関する調査のうち、公共放送の在り方に関する件を議題とし、質疑を行います。

質疑のある方は順次御発言願います。

吉川沙織君 民主党の吉川沙織でございます。

会長、経営委員長、それから監査委員、この三人の皆様とは二年前、初井会長が一月二十五日にNHK会長に就任をされてから、それぞれ九十分八十分、四十分、最後が百十分の質疑でございますが、それぞれ公共放送の在り方を問うために質疑を重ねてまいりました。しかし、他委員会の方に移っておりますので、こうやって直接いろんな形でNHKの在り方について伺いをさせていただきますのは約二年ぶりということになります。

本日午後一時、衆議院本会議で平成二十八年度NHK予算案の採決がなされる予定です。全会一致とはなりませんが、採決をされれば可決をし、参議院の方に送付をされることとなります。当委員会にすんなり付託されるかどうかはまだ分かりません。

久々に総務委員会に復帰をしましたが、この会

長の会見の、つまり就任直後から状況は改善しているんじゃないか。改善している部分ももしかしたらあるかも分かりません。でも、職場の雰囲気を含めて、不祥事の連鎖は止まらず、悪化しているのではないかと言わざるを得ません。このままではNHKに対する国民・視聴者からの信頼を失いかねないとの危機感の下、これから質問させていただきます。

冒頭申し上げましたが、初井会長就任後、恐らくこれで三年連続NHK予算案が全会一致とらないことが見込まれます。このことに対する御所見、会長と経営委員長に伺いたいと思います。

参考人（初井勝人君） もとより、我々はNHKの予算を、我々公共放送という立場からしても全会一致で通していただくということを最大の眼目といたしております。誠心誠意我々も丁寧に説明をし、またそういうことを心掛けてまいったつもりでございますけれども、皆さんの全員の十分な理解をいただくまでには至らなかったということとは極めて残念だというふうに思っております。

全会一致にならなかったという結果は、これは我々は真摯に受け止めて、参議院では全会一致で通していただけるよう更に努力をいたす所存でございます。どうぞよろしく御指導お願いします。

参考人（浜田健一郎君） 会長もお述べになりましたけれども、NHKはもとより受信料で成り

立っている公共放送であり、そういう意味では、放送法で定められた理念を実現するためにも全会一致は当然求められるべき事項かなというふうに思っています。そういう中で、衆議院では委員会で全会一致が得られなかったということは大変残念だというふうに思っております。

経営委員会としても、全会一致のための努力を残された時間精いっぱいやっていきたいというふうに思っています。どうぞよろしく願います。

吉川沙織君 参議院総務委員会は、一昨年と昨年の附帯決議で、「経営委員会は」と経営委員会を名指しで附帯決議の項目を起こしました。衆議院総務委員会においては、一昨年附帯決議を付けましたが、経営委員会とは名指しをしていません。昨年の衆議院総務委員会はそもそも附帯決議を付けていません。一昨日の衆議院総務委員会は初めて経営委員会を名指しする附帯決議を付けましたが、我が参議院総務委員会は一昨年と昨年、「経営委員会は、協会の経営に関する最高意思決定機関として重い職責を担っていることを再確認し、役員の職務執行に対する実効ある監督を行うことなどにより、国民・視聴者の負託に応えること。」との附帯決議、附帯決議に関しては全会一致で議決をしています。

また、これを受けて、平成二十七年四月十四日、

第千二百三十五回経営委員会では、「予算は通ったが、附帯決議で会長や経営委員会が名指しで触れられていることは重く受け止める必要がある。」、こつという意見交換が経営委員会の議事録の中に残されています。このことに対する受け止めを経営委員長に伺います。

参考人（浜田健一郎君） あの議事録のとおりでございます。私どもとしては、そういう御指摘をいただきましたことは重く受け止めるべきだろつというふうに思っています。現在の委員会運営は、そういう御指摘をいただきまして、その御指摘にかなうべく委員会運営をやっているというふうに思っております。

吉川沙織君 経営委員会として監督権限、職務機能を発揮していただくこと、実効ある監督責任を負うことこそがずっと求められていると、そう思っています。でも、そうじゃないから、これだけいろんなことが続いて、昔の不祥事も含めて発覚してくるんだと思いますが、また別の観点から伺います。

一年前の六月十七日、一人で百十分質疑したときも取り上げました、理事の退任挨拶についてです。

平成二十六年四月二十二日、第千二百十二回経営委員会、「職場には少しづつ不安感、不信感あるいはひそひそ話といった負の雰囲気は漂い始め

ています。現場は公共放送を担うことへの誇りと責任感を何とか維持しようと懸命の努力を続けていますが、限界に近づきつつあります。一刻も早い事態の収拾が必要です。」、こんな悲痛な退任挨拶が行われている議事録、私、二年前の質疑に当たって公表されている経営委員会の議事録は全て読みました。こんな挨拶は一度もありませんでした。でも、昨年も今年も同じような理事の退任挨拶が行われる結果となっていました。

会長、いかがですか。

参考人（初井勝人君） 退任された理事につきましては私は個人的な意見を述べられたものだというふうに思っておりますので、私がそういうスピーチに対してコメントしようとは思っておりません。

私自身について申し上げれば、それはいろんなことがありましたけれども、二年前に会長に就任してからこの間、自分としてもNHKをより良くするためにベストを尽くしてきたつもりでございます。結果としていろんな不祥事が起こつたりして誠に申し訳なく思っておりますが、更に今後ともNHKを改革して、やはりみんなが一丸となつて、より良いNHK、視聴者の皆様に信頼されるようなNHKにしていくな覚悟であります。よろしく願います。

吉川沙織君 会長は職務がお忙しいでしょうか

ら、過去の経営委員会の議事録御覧になっていないと思いますが、こんな挨拶は三年連続あることの方がおかしいと思います。そういう環境をつくったのは、放送法第五十一条に定められるように協会を総理する立場にある会長にあると思いますので、そこは、来年はどうなっているか分かりませんけれども、しっかりとそういう挨拶がなされないようなトップを含めた職場環境をつくっていただきたいと思います。

これから少し具体的な点をお伺いしたいと思います。去年、当総務委員会でも衆議院の総務委員会でもかなり議論されたと思いますが、私、ちょうどそのとき経済産業委員会の方にいましたので、少しどうしても不明な点、幾つか確認をさせていただければと思います。

昨年三月十九日、会長のハイヤーの私的利用をめぐる経理処理事案に関する報告書、これが監査委員会から提出されています。これを全体から読めるのは、三つぐらいの点があると思います。会長はハイヤー利用代金を当初から支払うとされていた、会長の私的利用のハイヤー利用については放送法、内部規程上も可能とされる場合があるということ、今回事案の責任は全て秘書室職員の不適切な経理処理にある。全体を通して読めば、こうしか読めません。

しかし、昨年三月十九日、経営委員会終了後の

記者会見、このブリーフィングを見ると、経営委員長と監査委員の答弁が余りにもぶがいないと言わざるを得ません。

重要な点、これ、記者から結構いい質問が出ています。核心を突くような記者の質問に対して、経営委員長も監査委員も、ここで記載したとおりなことしか言えない、はつきりしなかった、これ以上は言えないなどと、誰かに委託し監査委員が実際に綿密に調査したとは思えないようなやり取りが残されています。

例えば、代金は会長が自分で支払うという発言を秘書室は十二月二十六日の時点で聞いていたのかとの問いに、監査委員は、必ずしもそこははつきりしない、明確かどうか。次に、全てのポイントはそのだと思ふとの問いに、事情聴取したときのテープ起こしが手元にある、秘書室長の言葉は次のとおり、私がハイヤー使用を会長に提案し、会長もプライベートの使用ということでした。承した経費については後日支払うことにした。続いて記者が聞きます。それは会長が言ったのか、秘書室の人が内心で思ったのか。後で確認する。そして、最終的には記者の問いに、監査委員会事務局が、検討させていただく、このやり取りで全てが終わってしまっています。

実際のところは、監査委員、どうだったんですよ。

参考人（上田良一君） 今の御質問のところですけれども、十二月二十六日にハイヤーを発注した段階で会長に支払う意思があったかどうかの質問ということですよ。いいですね。それで、会長は車の手配を要請されており、秘書室として、ゴルフは私用目的であることから、けじめを付けるためにハイヤー利用を会長に提案し、ハイヤー代金は会長自身が支払うものと、会長及び秘書室長共にそのやり取りの中で会長が支払うことで合意があったというふうに私も認識したわけですよ。

それ以降、いろんな議論がありましたけれども、それを覆すような事実は見受けられなかったということですよ。

吉川沙織君 今伺いましたのは、三月十九日の記者ブリーフの中に、会長はもちろん私的利用だからハイヤーは使ったと、でもそのときに代金を支払うというのは本当に聞いたのかどうかと記者から問われて、その問いに監査委員も監査委員会事務局もそれを答えられなかったもので、答えることを検討させていただくという問いのやり取りで終わっちゃっているんです。

なので、それは本当に確認できたんでしょうかという問いですので、今の御答弁だと全く違つ答弁になります。

参考人（上田良一君） 残念ですけども、今

の吉川委員の方から御質問がありましたその点に関する確認は取れていません。

吉川沙織君 では、会長にお伺いします。

昨年三月二十五日の衆議院総務委員会においてこのハイヤー問題の件で、会長は最初にどのよう秘書室に依頼したんですかと議員から問われて、「一月二日に車を用意してください、こう言いました。」と答弁されています。その後、同じ十二月二十六日の日に、車を用意してくださいと会長が秘書室にお願いをして、その後本当に自分で代金を支払いますとおっしゃったんでしょうか、お答えください。

参考人（舂井勝人君） その言葉で申し上げたかどうかというのはちょっと定かではありませんが、二十六日に、車を用意してくださいと言ってお願いしたことは事実でございます。

しかし、そのときの会話、先ほど御披露ありましたけれども、秘書室長と話したときに、会長これはプライベートのゴルフですよと、じゃ区別するためにハイヤーを用意しよう。ハイヤーを用意するということは公用車じゃないということですから、これはお金もつきりますし、私用ですから私が払うという意味を当然含んでいるわけでございます。

吉川沙織君 今の答弁からは、はっきり含んでありますというのはこれは会長の思いであって、

明言をされたという答弁ではなかったように思います。

理解できない点について更にお伺いします。

この監査委員会が出した報告書を読めば、当初、会長の車の手配に対し秘書室は、公用目的で利用される会長車ではなく、ゴルフは私用目的であるからハイヤーの利用を提案し、会長もこれを了承したと書かれています。今、会長の御答弁にもあったとおりだと思います。でも、これって秘書室長がわざわざ提案するまでもなく、ゴルフなら会長車を使うまでもなく、常日頃の会長の車がどういう使い方なさっているか分かりませんけれども、秘書室長としては、やっぱりちょっとこれまずいんじゃないかと思つて提案してハイヤーにしたんじゃないかという考え方も成り立つわけです。

そもそも、新年のゴルフ大会、これ新年のゴルフ大会つてこれに書いていますからね、新年のゴルフ大会という私用目的の車の手配は会長自身になさればいいことではないでしょうか。しかも、一月二日に利用されるために十二月二十六日に秘書室長にお願いをされた。時間的余裕も、もちろん年末年始といえど、日はあります。このような個人的案件も秘書室が担わなければいけないのでしょうか。会長の全く私的なゴルフに関する事も公的機関であるNHKの秘書室が携わるのは、秘書業務として常識的範囲内のことであり、一般

社会ではよくあることなんでしょうか、会長。

参考人（舂井勝人君） 秘書に頼んだということとは、やはり手慣れている秘書に頼むのが一番、どういいでしょうか、勝手が分かっているといいでしょうか。じゃ、私はまず電話するときには、まずハイヤーの電話番号から探してやらなきゃいけないという、こういうことに相なるわけでございますから、ここところは委員、是非、便宜的に、便利さのために秘書に頼んだということ。

それから、十二月二十六日は、たしか私の記憶では、最後の日だったと思います。年末最後のワーキングデーだったと思います。いや、私の記憶によれば、是非チェックして間違つていればそう指摘していただければ有り難いんでございますけれども。

それから、ハイヤーを頼むということは、何回も私、この場で申し上げておりますけれども、これは公用車じゃないという意味において、プライベートだからハイヤーを使ったというこの理屈はもう昨年から何回も申し上げているとおりでございます。今もつてその思いは変わりません。おまえがやればよかったじゃないかと言われれば、もしかしたらそうかもしれませんが、今申しましたように、手慣れた秘書に頼んだということでございます。

吉川沙織君 今、会長、ちょうどお願いをされ

た十二月二十六日はその年の最後のワーキングデーだと答弁をされましたが、土曜日なんですけど、委員長（山本博司君） 速記を止めてください。

〔速記中止〕

委員長（山本博司君） じゃ、速記を起こしてください。

参考人（粕井勝人君） いや、私の記憶が正しければと申し上げてありましたので、ちょっと一昨年ですよ、ちょっとそれ間違っているかもしれない。間違っていたら訂正いたします。曜日は外して、十二月二十六日でございます。

吉川沙織君 曜日も多分違っていたと思います。そこがもしかしたら会長にとっての最後の出勤日だったのかもしれませんが、一般的な御用納めはその翌週の月曜日だったと思います。

NHKとしての会長の私的な事項のどこまでが秘書室の業務と考えているのか、際限ないんですよ。今、ハイヤーの手配のときに御自身で電話番号を調べなきゃいけないですが、勝手が分かっているのでも分かる秘書室にお願いをしたということですが、これ、どこまで結局、じゃ、お願いされることになるんでしょう。

参考人（粕井勝人君） 私、さつき便利さと申しましたけれども、公用車が付いているという意味において、やはり私は、セキュリティを自分でも確保する必要があるわけですね。そういう意

味において、やはりタクシーで行くという、そういうことはもちろん可能ではあるんですが、やはり秘書に頼んだということは、秘書が私は何をしているかを知っている、プライベートだけれども、何をしてもどこに行くと、で、どういう交通手段を使ったということを知ることが、ある意味では当然のことだろうというふうに思います。

聞きました、十二月二十六日は金曜日だそうでございます。したがって、最後の日だと思います。吉川沙織君 では、今セキュリティ上の問題について触れられましたので、この観点から少し伺います。

安全の確保に配慮した、これは監査報告書でも書かれています。セキュリティ上問題があるところに、NHK会長という、日本の顔です、本当の公職です、公職にある方が私的目的でセキュリティ上問題のあるところに行かれること自体が、一つの見方とすれば問題だと言えます。一般的には、公職にある人は私生活においてリスクはできるだけ避けるべきじゃないかと思えますし、自発的にリスクがあるところに行きたいとおっしゃるのであれば御自分で対処なさるのが筋だと思います。

続いて、伺います。

結果、報告書にもあるように、そもそもNHKは、協会が手配するハイヤー、タクシーについて

私用目的での利用は内部規程上認めておらず、運用上も通常は業務遂行にのみ利用が認められています。これは、過去の不祥事を踏まえての内部規程ではないでしょうか。そもそも、この内部規程は、NHKの支出の制限等を規定した放送法第七十三条の解釈を敷衍したものではないでしょうか。監査委員に伺います。

参考人（上田良一君） お答えいたします。

監査委員会といたしましては、私用目的であつたといたしましたも、会長という立場上必要な身柄の安全、情報管理及び所在確認のために、協会が手配するハイヤーの利用を必要とする場合があることを否定するものではありません。

しかしながら、監査委員会は、視聴者からの受信料で成り立つNHKにとって公私の区別が極めて重要であり、とりわけ協会のトップである会長や会長を支える秘書室等には高い倫理観と説明責任が求められていることを常に意識して行動すべきであると考えております。

監査委員会といたしましては、まず執行部において会長のハイヤー、タクシー利用の在り方等について検討を行うとともに、仮に協会が手配を行う場合があつても、ハイヤー会社からの会長宛ての請求書が届くように手配を徹底させるなど、協会が取るとしている再発防止策が着実に実行されることを以降注視してまいっておるわけですね。

ども、今の吉川委員の御質問に対しては、冒頭申し上げましたように、会長という立場上ハイヤーの利用を必要とする場合があるということを監査委員会としては否定いたしておりません。

吉川沙織君 放送法第七十三条は、NHKは「業務の遂行以外の目的に支出してはならない。」と規定しています。会長の私用目的である新年のゴルフ大会のため、公用車は当然として、ハイヤー料金の支払あるいは立替払は絶対にできません。これ以外解釈のしようもありません。

ところが、昨年三月二十四日、衆議院総務委員会理事会上に提出された文書を見ると、放送法第七十三条の解釈をゆがめるような文書が、まあ様々なやり取りがあったんだと思いますが、出されてしまっています。昨年二月下旬に内部告発があつて、問題処理のためいろんなものが考えられ、それに基ついて会長は三月九日に代金を戻しました。監査委員会は調査をしました。事務的な瑕疵はあるものの、本来は、会長が私用目的であっても、その立場上、今答弁ありました、必要な身柄の安全等を目的としていたことに鑑みれば、業務遂行との関連があるものと考えられるとの放送法第七十三条を曲解する説明がなされています。これは報告書全体を読めば分かることです。

監査委員に伺います。

今、会長は、協会を代表し、経営委員会の定め

るところに従い、その業務を総理する立場にあることからということをおっしゃいましたが、その解釈で間違いないですか。

参考人（上田良一君） お答えいたします。

放送法七十三条に関しましては、昨年、いろんな形で議論がありまして、専門家の意見も聴取しまして、私の方で文書で七十三条の解釈に関しては報告をいたしております。

ちよつと長くなりますが……

吉川沙織君 いいです、時間ないです。

参考人（上田良一君） それじゃ、そのポイントは……（発言する者あり） よろしいですか。

吉川沙織君 もう水掛け論になると思いますが、これは何とか放送法違反にならないように綿密なやり取りの上で作り出された文書だと思えますが、私としては国民を愚弄する態度とは思えません。協会を総理する立場にある、だからこの放送法第七十三条に抵触しない、法に反しないとするのであれば、今年二月二十三日に、NHK会長コメント、「アイテック多額不正事案に係るNHK責任について」、これ会長のコメントとして公表されています。この中にこうあります。「視聴者・国民の負託により、受信料で運営されるNHKの社会的な責任は、法的な責任の有無にかかわらず重いものがあります。」

どんなに詭弁を弄したとしても、一時的にでも

視聴者の方からいただいた受信料が会長の私利私用のハイヤー代に使われたのは、これは、どんなに解釈をしても、どんなに法律を読み込んでみても、紛れもない事実です。何日間かは会長のハイヤー代が受信料から立て替えられていた、これは紛れもない事実です。法には反しないけれども、アイテックのときはこつやつてコメントを出している。

会長、この件について何かお考えありませんか。

参考人（初井勝人君） あえてもう一度言わせていただきますけれども、ハイヤー問題については、私は当初から自分で払う意思を表明してやっていたわけでございます。それが、要するに、事務手続上の問題で伝票が紛れ込んでしまったと。委員、多分御承知だと思いますけれども、あの伝票は私のサインではありませんので、私はその伝票の存在すら知らなかったわけですから、そういうものが回った挙げ句にお金を支払われたという事実は是非御理解いただきたいと思えます。私もこれ以上言つつもりはありません。

アイテックの問題については、まさしく、私の詭弁ではなくて、本当に私は今はそう思っております。要するに、いろんな形で法に違反しているとか違反してないとか、そういうことではなくて、やはり我々は、基本的には視聴者の皆さんに疑惑を持たれるようなことはあつてはならないという

ことは一二〇%私は理解し確信しているわけでございます。今後とも、その線に沿って最大限の努力をしてまいる所存でございます。

吉川沙織君 今年に入ってからNHKの職員がタクシーのチケットの不正使用でかなりいろいろ問題が出て厳しい処分をされています。これも、もちろんいろんな答弁はあるでしょうけれども、実際受信料がそういうチケットに使われてしまったということですから別問題としては変わらなと思います。が、会長と比べて物すごく重い処分が科されています。

今、会長、伝票のことについて触れられたので、少しそのことについて申し上げたいと思います。

最近の経営委員会では、会長自身が伝票処理の重要性について語っておられるのがあります。平成二十八年一月十二日、第千二百五十二回経営委員会。「一番効果的なのは、伝票をきちんとしてやることだと申し上げているわけです。」「関連団体に」「要請したのは、口で「コンプライアンス」と言うよりも、もう少し分かりやすく具体的に、つまり、出金伝票をきちんと照査するように。」「これ、会長がおっしゃることを信じるならば、会長のお膝元でこういう処理がなされていなくてハイヤー問題は起こったということにもなりますので、会長がおっしゃっていることが少しよく分からないということがあります。

監査委員に伺います。

今回の件、九人に調査をされたということは去年の当委員会でも明らかになっていきます。監査委員自身が直接事情聴取をしたのは六人とも伺っていますが、会議録から読み取れるのは、会長、コンプライアンス統括理事、秘書室、ハイヤー手配等を担当する総務局関連職員、支払を担当する経理局関連職員、秘書室統括の副会長、これで六人になります。ということ、秘書室は一人にしか聞いていないということでもよろしいですね。

参考人（上田良一君） ちよつと手元に資料がないので正しく誰に聞いたかということは記憶をたどる以外ないんですが、今、吉川委員がおっしゃったことで大きな違いはないというふうに思います。

吉川沙織君 分かりました。

今回の件は内部告発に基づいて調査が行われました。ただ、通報の対象者が経営のトップである会長であつたために、放送法第三十九条に基づいて経営委員会に報告され、内部通報制度の枠組みで行われたわけではないとされています。

今回の案件は、トップの会長だったからこそ、こんな報告書ではなくて、監査委員も経営委員長も一層十分な調査を行うべきだったのではないかと考えています。

報告書は、残念ながら、よく読めば矛盾だらけ

であると思いますが、経営委員長の見解を伺います。

参考人（浜田健一郎君） 経営委員会では、監査委員会の報告を受け、それを了承いたしました。

吉川沙織君 この監査報告書、秘書室の周りについては秘書室と秘書室長と秘書室職員、書き分けて責任を明確にしているように装っていますが、このような重大事、一秘書室職員が独断でできるわけありません。しかも、その事件が起こる直前は十月から十二月までコンプライアンス推進月間で、会長自身が守りましょう。しかも、平成二十七年の一月の会長年頭会見でも、コンプライアンスの徹底は大事だ。そのお膝元で経営の中枢である秘書室でこのような失念したというようなことはなかったと思います。結果、今回の処分を踏まえたのを見ると、監督責任は上へ行けば行くほど希薄になり責任の所在が曖昧模糊で終わってしまったという残念な事例だったと思います。

次に、最近起こった問題、土地取得問題について、多分今から申し上げることは、これまでの質疑者とは少し見方が違う質問になると思います。これから幾つかそれぞれの立場の方にお伺いしていきます。

最初に、NHK子会社の利益剰余金の額を、最近のものとその一年前のものを会長に伺います。

委員長（山本博司君） 初井会長、もう一度確

認してください。

参考人（粕井勝人君） 済みません、ちょっと聞きそびれたんですが、もう一回お願いします。

吉川沙織君 NHK子会社の利益剰余金の額、平成二十六年度末の分を教えてください。一年度分だけで結構でございます。

参考人（粕井勝人君） 約九百億なんです、現在、正確に言いますと八百九十四億でございます。

吉川沙織君 八百九十四億ということでしたが、これは翌年度の決算配当実施後の額で、利益剰余金自体は九百十六億円ということだと思います。

会長に、経営者としての会長に伺います。

この利益剰余金はどうに活用されるのが望ましいとお考えでしょうか。

参考人（粕井勝人君） まず、企業におきまして利益剰余金というのは、その組織のいわゆるワーキングキャピタルとして大体必要なものがございます。そのほか、固定資産として持っているものもございます。

そういうわけで、剰余金の中には、本当にキャッシュとして余っている剰余金と、それから運転資金として必要な額と、さらに固定資産あるいは投資のための資金と、それから将来の配当に備えるものと、これだけいろいろあると思います。

吉川沙織君 今いろいろ見解を述べていただき

ましたが、活用法、今おっしゃっていただいた運転資金を運転資本として残しておくのはもちろん大事ですが、それ以外では、NHKとしてそれを制作費に回すですとか、いろんなものを作るですとか、それからそれ以外のことも考えられますが、今回の土地取得問題と絡めて何か御見解ありますか。

参考人（粕井勝人君） 今回の件は、土地取得が目的ではないということは御存じだと思います。やはり、その関連企業十三社並びに独立法人がございますので、こういうものを集めて一体化したグループ経営をやりたいと、こういうのは私としては希望を持っているわけでございます。

みんなやっぱり関連企業も一緒になった方がいいということ踏まえまして一緒になるというプロジェクトがありました、これは、ビルを買って一緒に入ろうとか。そういうことがありまして、それがうまくいかなくて、そこへこういう土地がありますという話がいわゆる金融筋から関連企業に参った。そこで、じゃ、合わせるとちょうど九百億近いお金がある、これを利用すればいいじゃないか、なかんずく、みんな一緒に入るんだから、そういうことでスタートしたわけでございます。

吉川沙織君 今、会長から、取得というよりも、関連事業会社、例えば、今回は九社が関係したと

思いますが、この関連企業を全部一緒のテナントに入れることによって効率的な経営ができる。それから、また別の見方をすれば、今ばらばらとあるビルを一個にすることによって、テナント代多分それぞれに掛かっていると思います、それをかなり節減することも可能だという見方もできます。しかも、今回取得しようとした、優先交渉権を得たところで止まりましたけれども、その土地というのは、結果、新しい放送センターというのは今の土地に建て替えますので、その新しいビルにもしスタジオなんかを造れば建て替え中にそれを代替することができ、こういうメリットはあると思うんですが、いかがでしょうか。

参考人（粕井勝人君） いや、もう私がお答えするまでもなく委員は本当によく御存じで、ただいま本当に御指摘のとおりいろんなメリットがあるわけでございます。本当にありがとうございます。もう全く付け加えることはございません。

吉川沙織君 一方で、デメリットとしては、この土地が三百五十億というふうに報じられました。これは相場よりかなり高い。ですから、この価格がかなり問題だと思います。これは余りにも高過ぎる。と同時に、やはり経営委員会に全く諮っていない。これは、監査委員会の報告書で、今回の件は放送法には触れない、大事な第二十九条に抵触するんじゃないかということでこれは問



題視をされたわけですが、上田監査、これはこの土地取得まで行っていない。優先交渉権を十一月十九日に得たとの連絡があつて、十一月二十五日に、会長が今おっしゃいましたが、関連会社九社の社長をちゃんと集めて各社前向きに検討することを依頼して、関係理事も最初からちゃんと関わって手続を踏んでやっていたものと私は認識しています。でも、結果、それが経営委員会に諮られていなかったので大きな問題になった。価格も高い、それから不祥事も頻発している、こういう状況もあつて、なくなつてしまいましたけれども、監査委員、これは放送法には抵触しないという、こういう結果そのまま読んでよろしいですか。

参考人（上田良一君） 監査委員会といたしましては、この手続に関しましては、十二月一日の役員会で、私の方から、この土地問題が議論されているということを知りまして、一週間、次の十二月八日の日に経営委員会で報告するまでいろいろ調べましたけれども、その過程においては、手続上、放送法にないいろいろな規程に触れるような事実は発見できなかったということで、十二月八日の日に、もし進めるのであればこういう問題がありますよということを経営委員会で指摘したわけですが、その後すぐに撤回されたということですね。

吉川沙織君 監査委員会としては、これ、関連

団体による土地取得計画事案についての報告、平成二十七年十二月二十二日に出されています。でも、今御答弁あつたとおり、十二月八日の経営委員会でこの話題が出て、その前段で理事会でもすつたもんだあつたようですけれども、結果として、この日の昼から経営委員会が開かれてそこで大きな議論が多分なされたんだと思います。

この議事録は公開されていましてので詳細なやり取りは分かりません。経営委員長、なぜこれをやめたんでしょうか。

参考人（浜田健一郎君） 十二月八日の土地取引に関する議論は、不動産の取引に関わる交渉中の事案である、相手先もあることから、公表することにより関係者に利益若しくは不利益を及ぼすおそれがあるものと判断しました。つきましては内容は非公開とすることを前提として議事を行いましたので、議事録は非公表とさせていただいております。

吉川沙織君 もちろん、相手があること、それから交渉中であること、それは重々承知しています。二年前の質疑の中でも、経営委員会の議事の内規、これ、どういう案件を公表するのか否かというものも、理事会で当時の委員長の差配によってお出しをいただきました。そこは承知をしております。

ただ、今伺いましたのは、上田監査もこれまで

の委員会の質疑の中でこの案件を御存じになったのは十二月一日だと何度も答弁をされていますし、そのように書かれています。

経営委員長は、これ、いつ知るところになったんでしょうか。

参考人（浜田健一郎君） 私十二月一日の事前の打合せの段階で知りました。

吉川沙織君 十一月十九日に、夕方、みずほ信託より内定の連絡があつて、優先交渉権を得たという、こういう事実があつて、十一月二十五日には、これも明らかにされていますが、会長が、これ元々こういう話が進んだのはもつと別のことがあつて、会長がこれを取れというのではなくて、いろんな事実があつて、剰余金はどうなっているのか、じゃ剰余金は最終的に視聴者に還元されるべきだ、しかも関連団体ばらばらにあるのを一つにまとめることによって効率的な経営ができる、これは大きな雰囲気の中でこれは決めていって、最終的にはどこかの段階で諮らなければいけない、これは会議録の中からも明らかにしています。それで、十一月二十五日の日にしっかり説明をして、関係理事二人も最初からそれに加わっていました。でも、十一月三十日、役員連絡会で説明をし、今、経営委員長と監査委員それぞれから、十二月一日のNHKの役員会で説明があり、十二月八日以降の経緯は皆様御存じのとおりでございます。



たします。

ありがとうございました。

誌の記事ですけれどもあります。もし官邸からそういう話が仮の話ですが来てこの事業を止めたというのであれば、もつと問題です。公共放送の経営が政府の意向に判断されているということにもなりかねないからです。明快な説明を求めます。会長、何かコメントありますか。

参考人（舩井勝人君） まず、官邸が云々という話は、これはもう全くございませんので……

委員長（山本博司君） 時間が来ておりますので、簡潔にまとめてください。

参考人（舩井勝人君） これは是非取り消していただきたいと思うんですが、私も、そういうことで、私がいろいろ、剛腕でいろいろやっただけなんです。私が勝手にやったことではないんですよ。一つ一つやっぱりプロセス取ってやっていますから、今後ともプロセスを経ながら、みんなの了承を得ながら事は進めていきたいと思っています。

委員長（山本博司君） 吉川沙織君、時間が来ております。

吉川沙織君 今取り消してくださいとおっしゃいましたが、私は雑誌に書かれていますと伝聞でお伝えしただけですので取り消す必要はないと思いますし、会長、これらの問題については引き続き公共放送NHKの在り方を問うために質問をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いい